# 平成19年度 病害虫発生予察注意報 第2号

平成19年6月11日発表:福島県病害虫防除所

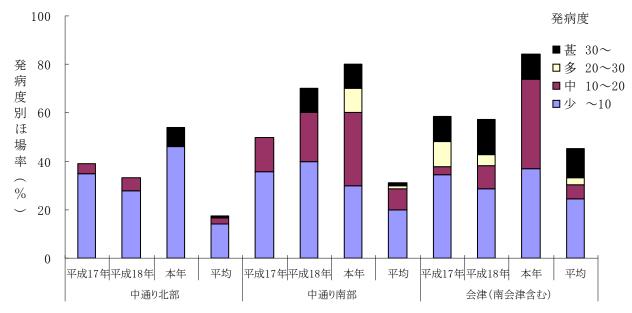
1 対象作物:リンゴ 2 病 害 虫:腐らん病

3 対象地域:中通り地方、会津地方

4 発生量:多い

# 予報の根拠

- (1) 県内各地方とも、本年の発生ほ場率は、過去8カ年の平均に比べ倍以上の増加となり、2005年 以降最高の発生となった。また、発生ほ場の発病度も中以上を占める割合が高まっており、被害 が深刻化している。
- (2) 各地方とも、枝腐らん、胴腐らんを放任しているほ場が目立っている。
- (3) 今後、梅雨期を迎え感染に好適な気象条件が続く恐れがあり、発生拡大が懸念される。



\* 平均:平成11~18年

図1 リンゴ腐らん病の発生状況

注

○調査数

マルバ台:10本、ワイ性台:25本

○発病程度(調査数全樹)

少:枝腐らん $1\sim5$ カ所、中:枝腐らん6カ所以上 多:胴腐らん $1\sim2$ カ所、甚:胴腐らん3カ所以上

○発病度=

 $\{(y \times 1 + p \times 2 + g \times 3 + E \times 4) / (4 \times 3 + g \times 3)\} \times 100$ 



写真1 腐らん病(枝腐らん)



写真2 腐らん病 (胴腐らん)



写真3 病斑上の子座



写真4 胴腐らんの末期症状





写真5 腐らん病により枯死・衰弱した側枝(枝腐らん)

○腐らん病の症状 腐らん病では、結果枝、側枝、主枝などの単位で症状が現れます(紋羽病では樹全体が衰弱したり枯死します)。

# 防除対策

## (1) 予防

## ア 耕種的防除

ほ場内での発病状況を注意深く観察し、薬剤による防除に頼ることなく耕種的な対策を併用することが重要である。また、ほ場間でも感染がみられるので、防除対策は地域単位で一斉に行うことが望ましい。

## (ア) 病原菌の侵入防止

胴腐らんは主幹や主枝部から生じた大きな傷口から病原菌が侵入し発病するため、直ちに傷口を 殺菌塗布剤の塗布により感染を防止する。

## (イ) 早期摘果

「ふじ」では摘果が遅れると果梗が残りやすく、ここから感染して枝腐らんに進展するので早期 摘果を心がける。

#### (ウ) 周辺環境の整備

近隣に放任園があり本病が発生している場合、伝染源となるので伐採などの対策を図り、伐採後の罹病枝・幹は放置することなく適正に処理する。

#### イ 薬剤防除

果梗からの感染を防止するため、予備摘果が終了する 6 月 5 日頃を目安に、ベンレート水和剤 2,000 倍 (使用期間:収穫 7 日前まで、使用回数: 6 回以内) またはトップジンM水和剤 1,500 倍 (使用期間:収穫前日まで、使用回数: 6 回以内) を散布する。また、発生が多いほ場では収穫終了後にトップジンM水和剤 1,500 倍またはベンレート水和剤 2,000 倍を散布する。

## (2)治療

# ア 枝腐らん

枝腐らんのみの発生であっても、放任すれば胴腐らんに被害が拡大するおそれがある。見つけしだい早急に健全部を 5 cm以上含めてせん除し、適正に処理する。切り口には必ず殺菌塗布剤(トップジンMペースト、ベフラン塗布剤 3 など)を塗布する。

# イ 胴腐らん

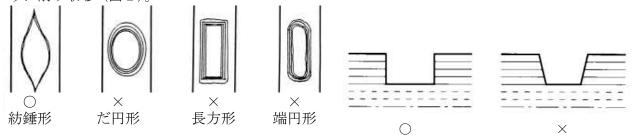
## (ア)病患部の削り取りと保護

見つけしだい病患部を削り取って、殺菌塗布剤を塗るか泥まきをする。せん除及び削り取った病 患部は絶対にほ場に放置しないで、ほ場外に持ち出し適正に処理する。

胴腐らんの発病程度が激しく、病患部が幹周の3分の2以上の場合は、収穫量が減少するうえ病 原菌の発生源となる。したがって、骨格部が罹病している場合は主枝・亜主枝単位で切り落とすか、 主幹まで罹病している重症樹は伐採し適正に処理する。

# a 削り取り

病患部と健全部の境目から、健全部を5 cm以上含め削り取り、樹皮に病原菌を残さないようにする。また、カルスの形成をよくするために枝幹部の上下方向に紡錘形にし、木質部に直角になるように削り取る(図2)。



※平面的には紡錘形に切り取る

※断面は垂直に切り込む

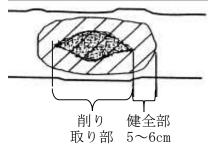
図2 腐らん病斑の正しい削り方(長野県果樹指導指針による)

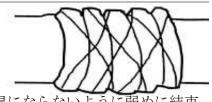
# b 削り取り部の保護

削り取り部に必ず、トップジンMペースト、ベフラン塗布剤3など殺菌塗布剤を塗る。なお、使用時期と使用回数を守る。

## (イ) 泥まき法

リンゴほ場の土壌に水を加え団子状にこね、削り取り部よりも5cm程度広く、3~5cm程度の厚さに張り付け、ビニールやポリエチレンフィルムで被覆し泥が乾燥するのを防ぐ(図3)。約1年間そのままにするが、被覆下の泥を付けていない部分が加湿により腐敗することがあるので、時々腐敗していないか確認する。





加湿にならないように弱めに結束、 反対側の被覆部に小穴をあけて、 水滴が溜まらないようにする。

図3 泥巻きの方法

●本情報は、福島県病害虫防除所ホームページ http:www.pref.fukushima.jp/fappi/ でもご覧になれます。

●情報内容への質問や要望は病害虫防除所までご連絡ください

Tel:024-938-4242 または e-mail:yosatsu@pref.fukushima.jp